

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成30年5月31日 (NO.108)



浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

1. 地域とともにある学校

■浦幌町は小中一貫CSを導入して、今年で4年目に入りました。

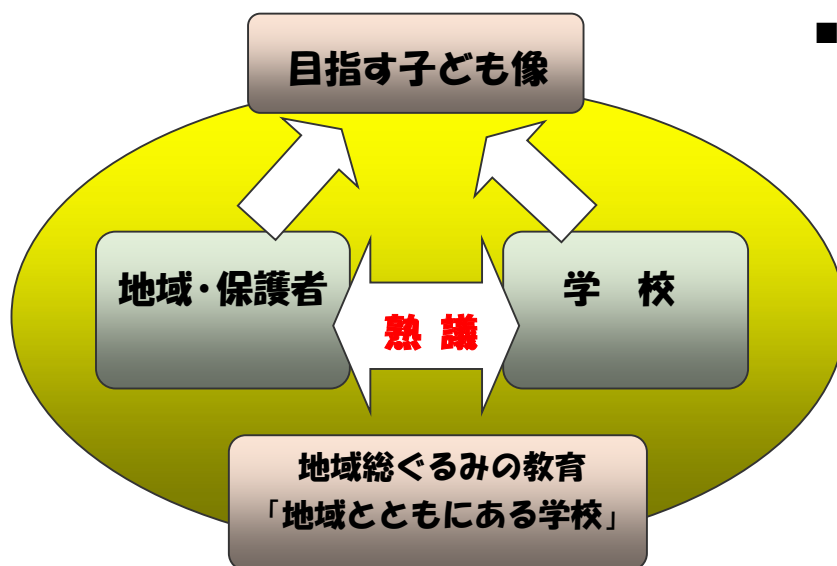
上浦幌学園(中央小、上浦幌中)と浦幌学園(浦幌小、浦幌中)では、学校の応援団である学校運営協議会を組織し、年8回の協議等を通

通して特色ある学園・学校づくりを進め、着実に成果を上げてきました。

2. 欠かせない3つの機能

■浦幌町では、地域とともにある学校運営に欠かせない機能として、「熟議」、「協働」、「マネジメント」の3点を重視してきました。とりわけ「熟議」は重要です。

(1) 熟議・・・地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するために、熟議(下図参照)を重ねることが大切です。



■教職員や保護者・地域の人たちが、「話し合い」を積み重ねながら、ボトムアップの自主的、実践的な活動を生み出しています。

そのためにも、子どもたちの状況をもとに、目指す子ども像を明らかにしてアクション・プランに位置付ける必要があります。

(2) 協働・・・熟議で共有したビジョンや目標の達成に向け、地域総ぐるみで取り組みます。浦幌町では、全町的に「スマホ・ゲーム機使用のルール」を宣言し、年2回開かれる「教育の日実践交流会」で取組の成果を交流しています。

(3) マネジメント・・・たえずPDCAサイクルを回しながら、確かな成果が表れるよう改善を加えてきました。「継続は力なり」を合い言葉に、「マネジメント」力を強化しています。

3. 小中一貫CSの取組で変わったこと

- ① 幼保小中間や学校・家庭・地域間の垣根が低くなり、協働・連携の態勢ができてきた。
- ② 乗り入れ授業や合同学習等の実践、学校支援ボランティアの活用場面が増えてきた。
- ③ 地域への愛着や誇りが芽生え、ふるさと意識が育まれている。
- ④ 学園・学校評価を生かした改善が図られてきた。